常磐高等学校　令和6年度　学校重点目標並びに学校自己評価表

（　計画段階　・　実施段階　）

学校運営計画			総合評価(3月)
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。		
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
「教育活動は全て授業から始まる」を合言葉に授業評価アンケートを継続し授業改善を行うことに加え、シラバスも試行し、わかる授業と学習の定着を行った。結果として国公立大学に10名、私立大学に91名が合格した。各コース別のキャリア教育プランが完成した。コース会議・コース集会を行い、各コース別のキャリア教育プラン活用の徹底により、希望進路の実現を図る。生徒会や各種委員会活動が活性化し、生徒主体の学校に大きく変わってきている。今後も生徒の自治活動の更なる充実を図っていく。教職員は研修によりスキルアップを図るとともに各分掌の横断的で組織的な取り組みの強化と各部・各学年の更なる連携をはかり、転退学を防止していく。	教科指導力の向上、個に応じた分かる授業により、基礎学力の充実を図る。	シラバスを活用し、家庭学習を定着させ、「予習、授業、復習(課題)」の学習サイクルを確立させる。	A
		新高等学校学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」を実践する。	
	基本的生活習慣を確立し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。	豊かな人間性を培い、自己の生き方を主体的に考える生徒を育成する。	
		「規範意識」を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。	
	各コース別キャリア教育プランを推進し継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。	大学入学共通テストの変革に対応した授業改革・受験指導を徹底する。	
		多様化する進路選択に対応した適切な指導を行い、希望進路の実現を図る。	
	自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。	
		互いに「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育を実践する。	

	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
学習指導	教科指導力の向上	・授業規律を第一に考え、シラバスを活用し「わかる授業」「伸びる授業」のため授業改革を促進する。	B	A	B	シラバスを今年度より本格的に導入し、生徒の活用状況を授業評価アンケートで調査した。半数ぐらいの生徒は活用できているが、残り半数は活用できていない状況であった。シラバスを活用することで予習や復習を家庭で行うこともでき、また、考査前に試験範囲の評価についても確認ができる。このような点を次年度は生徒により詳細に説明し、活用促進に努めていきたい。
		・定期的な授業評価アンケートで授業改善に努め、教員・生徒が一緒になって「授業満足度」向上を目指す。	A			
	学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。	B	B		
		・シラバスを利用して予習・授業・復習の学習サイクルを習慣化するため、家庭学習時間を確保する手立て(宿題・小テスト等)を徹底させる。	B			
生徒指導	規範意識の向上	・教員が率先垂範して、挨拶、返事、礼儀作法、言葉遣いなどの基本的生活習慣の凡事徹底を図る。	B	B	A	これまでの教育活動の結果、生徒の規範意識がこれまで以上に向上し、挨拶や雰囲気など良い状態に成長してきた。その反面、自己中心的な言動をする生徒が目立つような状況が生まれてきた。次年度はさらにこの流れを継続しながら、生徒が主体となって学校生活に取り組み、「当たり前のことを当たり前に」できるように指導を継続していきたい。また生徒会の活動もさらに活性化させより良いものを目指す。
		・学校内外でのモラルやマナー等の規範指導を行い、社会規範を身につけさせる。	A			
	生徒会活動の活性化	・生徒会を中心に生徒自らが自覚のある学校生活の確立させ、学校が自治的な生活の場であると理解させる。	A	A		
		・生徒会や各種委員会の活動を通じ、生徒が協同して自発的な行動を行うことができるように意識を高める。	B			
進路指導	進路学習の充実	・「総合的な探求の時間」の精査などの進路学習環境の整備をし、コース毎のキャリア教育プランの活用を図る。	A	A	B	本年度反省を踏まえ、学校目標達成に向けての新たな目標を立て、その取り組みを進路指導部だけでなく、全教員で行えるように各分掌、学年と協力したい。また、進路確定の最重要となる鍵は目的意識と動機付けであるということを念頭に、「～がしてみたい」「～になりたい」「～を学んでみたい」と生徒が自ら考え、行動できるように従来の進路行事の繰り直しと新たな進路行事の構築を実施する。
		・教育活動にICTを積極的に使用し、効率的で戦略的な指導の徹底を図る。	B			
	希望進路の実現	・朝課外や土曜講座の精査、模擬試験分析会の実施を行い、進路に繋がる学力の定着と意欲の促進を目指す。	B	B		
		・進路指導室と図書室の更なる活用を図り、進路意識に向けた動機づけを行う。	A			
その他	人権教育の充実	・人権教育特設授業や人権講話を通じて、生徒の人権意識と自己肯定感の向上によるいじめの未然防止に努める。	A	A	A	【人権】特設授業、講話等の質を高めると共に、生徒だけでなく職員側の更なる人権意識の向上のため、新たな人権課題についての研修の実施、及び生徒の日常からの人権意識向上を目指し、各HR教室単位での活動を提案したい。 【広報】オープンスクールの内容の検討をおこなう。夏の暑さ対策(各教室に分かれて全体説明)は、次年度も引き続きおこなう。HPやSNSの発信をさらに充実させ、生徒の活動を広く紹介する。
		・委員会や研修を複数回実施することで、教職員側にも意識の徹底を促し、校内全体に人権第一という雰囲気を醸成する。	A			
	広報活動の充実	・中学校や私塾との連携を強化し、オープンスクール・保護者説明会の参加者増を目指す。	A	A		
		・ホームページの随時更新とSNSを連携させ、教育活動はもちろん生徒の活動状況などを敷衍させる。	B			